**メッセージ ｢真理といのちの道の助け主｣**

**（ヨハネ14章）田坂元彦牧師**

　先週のヨハネの福音書13章では､イエスさまは私たちの足を洗って「あなたがたも同じようにしなさい」と新しい戒めをくださいました。｢あ｣たらしい ｢い｣ましめ､それは｢愛｣､しかも私たちがお互いの相変わらず汚い部分､全身清めたはずなのにまた汚れてしまった部分に､ひざをかがめ､手で触れること。そうすることでもちろん足を洗われる人も綺麗になりますが､それ以上に足を洗う者こそがイエスさまに似た弟子へと変えられていくのです。でもどうでしょう。もし心の中で｢なにこの汚い足､クサ！自分で洗えばいいのに…｣などと思っているなら､私たちはとてもキリストに似た弟子ではありません。仕事でも家事でも学校でも奉仕でも､洗ってもらう人は自分の一番汚ない部分を相手を信頼してキリストの御手に差し出します。そして洗う人は､相手が一番みっともないと思える所を見せてくれた愛に感謝して､キリストの御足を洗う。私たちはキリストの体ですから､キリストの手として愛をもってキリストの足を洗う。こうして教会はキリストの体を表します。キム･ヨンテ先生のメッセージにもありました。イエスさまを信じることは､イエスさまに従うこと。そうしてイエスさまの中に一つとなって生きることが､永遠のいのちなのです。

　今日はヨハネ14章に進みます。まず1節から4節までご一緒に読みましょう。**1「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ､またわたしを信じなさい。2 わたしの父の家には､住まいがたくさんあります。もしなかったら､あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために､わたしは場所を備えに行くのです。3 わたしが行って､あなたがたに場所を備えたら､また来て､あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に､あなたがたをもおらせるためです。4 わたしの行く道はあなたがたも知っています｡」**これからわずか8週間の間に起こるイエスさまの十字架と復活と昇天と聖霊降臨と教会生活が始まるにあたって､弟子たちが驚き戸惑わないように､それらが何のためなのか､その後どうなるのか､イエスさまは語られます。そして｢心を騒がせるな」とおっしゃいます。これは命令です。終わりの時代に向かう時には実に色々なことが起こりますが､いちいち心騒がせることは不信仰だからです｡「神を信じ､わたしを信じなさい」これも命令です。私たちはこれらの命令に従うか､背くか､どちらかです。時々こういう人がいます。｢私は神は信じる。でもイエスは信じない｡」けれども､イエスさまが命がけで証しされたのは「父なる神がイエスさまを遣わし､イエスさまが神を現した」ということですから、私たちが招かれているのは､イエスを神と信じる信仰です。そしてキム･ヨンテ先生がおっしゃったように､信仰とはイエスさまが生きた生き方に従うことです。2節3節でイエスさまは､十字架と復活の後「父の家に住まいを備えに行く。それはまた来て私たちを迎え､同居を始めるためだ」と言われました。すでに前の章で最後の晩餐の席で花婿主イエスさまから差し出されたぶどう酒を飲んで花嫁となった私たちは､十字架で流される花婿の血潮の杯をいただいて､天の父の右の御座で永遠の都､新しいエルサレムを準備してくださっている花婿の迎えを「マラナタ(来てください)」と待つ花嫁です。そして4節でイエスさまは「わたしの行く道はあなたがたも知っています」と「道」について言われました。すると3人の弟子たちがイエスさまに質問を始めます。まず「道」についてトマスが尋ねました。**5 トマスはイエスに言った｡「主よ。どこへいらっしゃるのか､私たちにはわかりません。どうして､その道が私たちにわかりましょう｡」6 イエスは彼に言われた｡「わたしが道であり､真理であり､いのちなのです。わたしを通してでなければ､だれひとり父のみもとに来ることはありません｡」**トマスは言いました「私たちにはイエスさまの行く道がわからなりません！」イエスさまは「エゴ エイミ(わたしはある)」とご自身が神であると宣言しながら言われました。もう一度6節をご一緒に読みましょう。**「わたしが道であり､真理であり､いのちなのです」**イエスさまが道であり､真理であり､いのちである。これはどういうことでしょうか。続いてイエスさまは何と言われましたか**「わたしを通してでなければ､だれひとり父のみもとに来ることはありません｡」**イエスさまは｢誰一人父のもとに行けない｣と言ったのではありません。みんなお父さんである神様に｢おいでよ｣と呼ばれている子どもたちだ､とイエスさまは言われたのです。ただし､それはイエスさまという道を通るしかない。それが本当の道でいのちの道。イエスさま以外は偽りの道で死への道なのだ､とおっしゃったのです。悪魔は｢こっちの水もうまいぞ｣とイエスさま以外にも道があるかのように私たちを誘いますが､それは本当の父のいのちへ続く道ではなく､偽りの父･人殺しであるサタンの永遠の死への道です。イエスさまはまたおっしゃいました。｢わたしは門です。だれでも､わたしを通って入るなら､救われます｣(ヨハネ10:9)､しかも｢狭い門から入れ。滅びに至る門は大きく､その道は広いが､そこから入って行く者が多い｣(マタイ7:13)。立派に見える門､大勢が歩いている広くて歩きやすい道に気をつけてください。滅びに至るニセの道ではなく､イエスさまを知る真理のいのちの道を一緒に歩んでいきましょう！

　イエスさまは続いて言われました。**7 あなたがたは､もしわたしを知っていたなら､父をも知っていたはずです。しかし､今や､あなたがたは父を知っており､また､すでに父を見たのです。**このイエスさまを｢知り｣父を｢知る｣という言葉が､先々週キム･ヨンテ先生が何度も言われた｢ギノスコ｣です。これは男女､特に夫婦が心も体も一つに結ばれるという意味です。イエスさまを知り､天の父を知る､神を知るとは､一つになること。新年度ニューライフ教会は｢イエスの中に一つとなる｣ことをテーマに歩み出そうとしていますが､私たちは道であるイエスさま通って一つとなるのです。

　さて**「今や､あなたがたは父を知っており､また､すでに父を見た」**と言われたイエスさまに､今度はピリポが尋ねました。**8… 主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します｡** するとイエスさまはピリポに答えました。**9…ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに､あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は､父を見たのです…11 わたしが父におり､父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ､わざによって信じなさい｡** そしてイエスさまは **12 まことに､まことに､あなたがたに告げます。**と大事なことを言われました｡ ご一緒に読みましょう。**わたしを信じる者は､わたしの行うわざを行い､またそれよりもさらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。13 またわたしは､あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも､それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。14 あなたがたが､わたしの名によって何かをわたしに求めるなら､わたしはそれをしましょう。15 もしあなたがたがわたしを愛するなら､あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。16 わたしは父にお願いします。そうすれば､父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります｡その助け主がいつまでもあなたがたと､ともにおられるためにです。17 その方は､真理の御霊です｡」**ここには4つのことが約束されています。①イエスさまを信じる者はイエスさまの行うわざと､またそれよりも大きなわざを行う ②イエスさまの御名によって求めることは､イエスは何でもしてくださる ③イエスさまを愛する者たちは､イエスさまの戒めを守る ④イエスさまはもう一人の助け主､真理の御霊をイエスを愛する者たちに与え､いつまでも共に住んでくださるよう､父に願われる。①イエスさまを信じる者はイエスさまの行うわざと､またそれよりも大きなわざを行う：死んだ人をもよみがえらせたイエスさまの御業を､私たちも本当にイエスさまの信仰をもって宣言するなら､今日も御霊が働かれて病の癒しも罪の赦しも悪霊からの解放もそして死人の復活さえも起こります。またイエスさまはガリラヤ､サマリヤ､ユダヤ限定で御業をされましたが､さらに大きなわざ､神の国の訪れを全地球規模で教会は証しするのです。②イエスの名によって求めることは､イエスさまは何でもしてくださる：だから「イエスさまの御名によって､お名前によって」イエスさまに祈り求めるのです。イエスさまの御名はすべてに勝る権威がありますから､何でも宣言した通りになります。③イエスさまを愛する者たちは､イエスさまの戒めを守る：｢イエスさまは愛しているけど､あの人は愛せない｣ではなく､イエスを愛する教会は「新しい戒め」お互いを愛します。④イエスさまはもう一人の助け主､真理の御霊をイエスを愛する者たちに与え､いつまでも共に住んでくださるよう､父に願われる：ここに御霊のご性質が3つ表れています。第一に御霊は助け主です。｢助け主｣と訳されたパラクレートスは｢そばに呼ばれた者｣という意味ですから､御霊は裁判の弁護人やマラソンの伴走者のようなお方､イエスさまを私たちが愛し､花婿主イエスと花嫁なる教会が一つに結ばれるのを粘り強く応援し助けてくださる神なのです。第二に御霊は真理の霊です。カトリックの神父さんがメッセージで言っておられますが､真理はギリシア語で「アレーテイア=隠されていないこと」ギリシア人にとって真理とは見えないものの本質が明らかにされることだと言える。一方､真理と訳されるヘブライ語は「エメト」この言葉は「アーメン(確かに､まことに)」と同じ語源で「確かなもの､頼りになるもの」を表す。つまりヨハネ福音書の「真理」には「隠されている神の本当の姿を明らかにする」 というギリシア語的なニュアンスと「本当に確かで､頼りになるお方」というヘブライ語的なニュアンスの両面があると考えられます。そしてイエスご自身が｢わたしが真理｣だとおっしゃいましたから真理の御霊は父が与えるイエスの霊であります。そして第三に､その御霊が誰に何のために与えられるか？御霊はイエスを愛する者たちに､永遠に主イエスと同居するために与えられます。イエスさまは続けて言われました｡ **18 わたしは､あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは､あなたがたのところに戻って来るのです｡** 私たちは一人ではありません。一つとなって主を待つ花嫁の教会です｡ **19 いましばらくで世はもうわたしを見なくなります。しかし､あなたがたはわたしを見ます…** すると今度はイスカリオテでないユダがイエスさまに尋ねました。**22 主よ。あなたは､私たちにはご自分を現そうとしながら､世には現そうとなさらないのは､どういうわけですか｡** イエスさまの答えはこうでした。ご一緒に読みましょう。**23 だれでもわたしを愛する人は､わたしのことばを守ります。そうすれば､わたしの父はその人を愛し､わたしたちはその人のところに来て､その人とともに住みます。24 わたしを愛さない人は､わたしのことばを守りません…26 しかし､助け主､すなわち､父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は､あなたがたにすべてのことを教え､また､わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。27 わたしは､あなたがたに平安を残します。わたしは､あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは､世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません…30 わたしは､もう､あなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることはできません。**イエスさまがはっきりと言われたのは､①神を愛するとは御言葉を守って神と共に住むこと ②助け主なる御霊が私たちにすべてのことを教え､イエスさまの御言葉もすべて思い起こさせて私たちを主のものとして聖別してくださること ③イエスさまが平安を与えてくださるので､心騒がせ恐れてはならないこと､そして④この世を支配する悪魔が来るが､イエスさまに対しては何もできないこと。最後に､イエスさまは今日私たちに言われます。**31…立ちなさい。さあ､ここから行くのです…** あなたはどこへ行きますか？元来た道へ一人で戻りますか？どうでしょうか。御霊に助けていただきながら､真理といのちの主イエスと一つに結ばれる道を､今日から一緒に歩み出そうではありませんか！♪一つにして をご一緒に賛美して､主イエスと一つとされる主の晩餐に与りましょう。